

# 仙台城址およびその周辺地域の動物

## 緒 言

加 藤 陸奥雄<sup>\*</sup>

仙台市青葉山地域は旧市街地の西側を半円状に囲む丘陵地で、貴重な自然環境を維持していることから、既に仙台市により保存緑地に指定され、その保全がはかられている。その地域は仙台城址、仙台城の天然の堀といわれる竜の口溪谷、北側の亀岡・山屋敷地区および三居沢の地区にまたがっており、北側は峡谷の様相をもつ離山地区、西側は郷六更に金剛沢・佐保山地域へと続いている。

今回の仙台城跡自然環境総合調査の調査地域はこの青葉山保存緑地地域の中核をなすべき地域である。この地域は藩政時代につづき第二師団司令部がおかれ、戦後はしばらくアメリカ軍駐留地となったが、その撤退後旧本丸、二の丸の後背地である御裏林は東北大学理学部附属植物園となり、やがてモミ林を主とする自然林は天然記念物「青葉山」として国指定文化財となった。つづいて二の丸地区は東北大学キャンパスに、三の丸地区には仙台市博物館の建設を見た。このように、この地域は迂余曲折に富む経緯をたどってきたが戦後各地でみられるような乱開発をまぬかれ、現在に至るまで良好な自然環境を維持しつづけていることは幸いなことである。

この地域の自然環境は市街地に隣接してはいるがその価値は極めて高く、地質学上、植物学上、動物学上からみて、旧市街地を囲む丘陵地域を象徴するものとして貴重なものというべきであり、仙台城構築の上でも大きな役割を担った意義は深い。

この地域の自然環境はこの地域の活用形態のこともあって一様ではない。仙台市の公園地域となっている追廻地区は東側は広瀬川右岸で、西側は五色沼につづく長沼で三の丸と界している住宅地域となっている。二の丸地区は東北大学キャンパスをなし自然の様相はうすい。自然の様相を濃く残しているのは本丸につづく御裏林すなわち

---

<sup>\*</sup> 仙台市青葉区八幡 3-17-3（東北大学名誉教授）

東北大学植物園と竜の口溪谷である。

この地域の自然環境は学術的にも貴重なものではあるが、その動物相、動物分布についての調査は必ずしも多くはない。小笠原曷及び調査員の一人である竹丸勝朗による鳥類の調査、同じく調査員である高橋雄一による昆虫類の調査があり、また青葉山保存緑地調査報告書（1979）における小野泰正による概説があるに止まっている。

竜の口溪谷は広瀬川と合流するに当たってその左岸は本丸東側の断崖となり、右岸はその懸崖を経々峯まで続け、チョウゲンボウの営巣が見られるが、その源流地域がゴルフ場更には住宅地へと接続していることから、その水量の維持と流水汚染に少なからぬ懸念がある。御裏林一帯は豊富な生物相をもっているが、これにつづく丘陵地帯の開発と共に自然丘陵としての連続性を失って孤立化の様相を呈しつつあるが、これが動物相とその分布にどのような影響をもつか注目される。

今回の調査では、それぞれの地区の特性をふまえ、上にのべた周辺の開発との関連に留意しながら、従来の調査との比較を行うことにも注意を拂った。

動物調査報告は次の7項目に分けて行ったが、調査を行うに当り協力を惜しまれなかった多くの方々に心からの謝意を表したい。

- I. 小山均・高橋修：仙台城址・青葉山地域の哺乳類
- II. 小山均・高橋修：仙台城址・青葉山地域の小型哺乳類
- III. 高取知男：仙台城址・青葉山地域の小動物（両生類・爬虫類・甲殻類）
- IV. 高取知男：仙台城址・青葉山地域の魚類
- V. 竹丸勝朗：仙台城址およびその周辺地域の鳥類
- VI. 小南陽亮・高槻成紀：仙台市青葉山における鳥散布植物の出現
- VII. 高橋雄一：仙台城址および周辺地域の昆虫類